

令和8年度入学者選抜学力検査問題 前期日程

総合問題 正解・解答例

I

問1

暴力を用いて経済的に最大限搾取される対象との間で、多くの場合契約によって成立する、労働をめぐる人間関係のあり方を指す。これを利用する者は、奴隷となる人々の合法的な所有を避けながらも、短期間にできる限りの経済的な搾取を行う。現代では安価に使役できる奴隷の予備軍が多く存在するため、使いものにならなくなった奴隷はすぐに捨てられ、新しい奴隷と入れ替えられることから、個人が奴隷となる期間は短期間に過ぎない。また、かつて存在した奴隷制や奴隷交易とは異なり、セーフティ・ネットとしての側面は存在しない。(246字)

問2

奴隷廃止は、それそのものを目的とするよりも、植民地化や支配構造の転換などの目的を達成する手段として遂行されていった。また、奴隷制の廃止に伴い、国家はかつて奴隷とされた人びとと直接的な関係を結ぶようになり、例えばタイでは徴税や徴兵制を通じて彼らを搾取する一方、社会保障のような恩恵も与えた。こうした経緯をへて、奴隷廃止という世界的共通体験が形成されてゆくなかで、世界中の労使関係は自由意志のもとに結ばれる契約という概念に基づくようになった。しかし経済的なグローバル化が進展したことにより、すでに奴隷制度は廃止されているにも拘らず、現代においてもなお、契約書によって証明される合意のもとに、一方的な搾取の対象とされている人々がいる。そのため奴隷廃止という世界史的共通体験が、忌まわしき過去に対する訣別や未来への希望を抱かせる半面、その再来のような現実もまた目前に存在しているという状況にある。(394字)

II

問 1

(1)

利他性とは、自分の損失を顧みず他者の利益を図ろうとする個人の価値観や意識のことである。一方、利他行動とは、実際に自分が損をしても相手を助ける具体的な行動のことである。利他性は内面的な価値観で、利他行動はその価値観に基づく外面的な行為である。

(120 字)

(2)

血縁者への利他行動は、自分と同じ遺伝子を高い確率で共有しているため、結果的に自分の遺伝子の生存に有利になるという理由で成立すると考えられる。一方、非血縁者への利他行動は、互惠的利他行動として成立する。知り合いなら直接的な見返りを期待でき、見知らぬ他人でも間接的な見返りを期待できるからである。(146 字)

問 2

寄付をした理由については、「社会の役に立ちたい」という要因が最大であり、純粋な利他性が中心となっている。だが、「町内会・自治会の活動」や「所得税の軽減措置」といった要因も上位にあり、「人目につく共感」、あるいは経済的な恩恵を受けたいという利己的な要因も働いている。寄付の妨げとなる要因については「経済的余裕のなさ」が最も多く、利他行動には一定の経済的基盤が必要であることを示している。だが「信頼性の欠落」や「実際に役に立っているとは思えない」という要因が上位にあることから、直接互惠性・間接互惠性が成立すると思われていないことも重要である。このように利他性は重要だが、それ以外の要因も無視できない。(299 文字)